

令和元年度 学校だより



# 潮 鳴 り

令和2年1月14日(火)  
御前崎市立第一小学校

学校教育目標

花いっぱい 自分 友だち 御一小

E-mail:

No. 11

onichi@ed.city.omaezaki.shizuoka.jp



## 「 ありがとうは 大人から 」



令和2年ねずみ年のスタートです。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ねずみは小さな生き物ですが、「子孫繁栄」の印と言われるように、仲間を増やす強みを持っています。またねずみ年は、小さなことを真面目に続けていく先に成功がある年であるとも言われています。さらに今年、60年に一度の庚子(かのえね)の年。大きなよい変化のある年なのだそうです。8月に行われる2020東京オリンピック・パラリンピックがその一つなのでしょう。私たち御一小も、期待と希望をもって、子どもたちの花がたくさん咲く学校づくりを進めています。

3学期は、本年度最後の節「感謝の花」節です。互いの成長を認め合い励まし合うとともに、自分の成長を支えてくれた人、もの、ことに感謝の思いを表す態度を育てる一年間のまとめの節です。毎年ある『感謝の花』節ですが、6年間の積み重ねが子どもたちをよりよく育てると考えます。

「感謝」は、毎日の生活の中で育まれていきますが、人は、ときに立ち止まって自分を振り返り、考えることが必要です。私たちは、一人で生きてはいません。様々な人やものやことに支えられて、今を生きています。でも、多くのことは普段忘れがちです。だからこそ、しっかり立ち止まって、自分の成長を振り返り、よさも課題も含めた自分を認め、支えてくれた人やものやことに感謝する気持ちを子どもの時代に育てていくことが、生涯にわたって、幸せに生きていくために不可欠なことだと思うのです。そのように考えると「ありがとう」の言葉を言うことに深さを感じませんか。「ありがとう」の言葉を誰かから掛けられたとき、うれしくなります。また、自分が「ありがとう」を伝えた相手の喜ぶ顔を見て、自分もうれしくなった経験もありますよね。幸せの連鎖です。

今年も「自分からありがとう」を合い言葉に、感謝の花節の教育活動を進めていきます。「ありがとう」を自分から先に言えることは、相手も自分も幸せにいます。御一小全体にみんなで「ありがとう」の空気を流します。

どうぞ御家庭でも、たくさんの「ありがとう」を子どもたちに掛けていただきたいと思います。こうした周りの大人の声かけによって、子どもたちは、周りの人から認められた喜びを感じ、自分は大切な存在であることに気づきます。そして、掛けられた言葉をまねて、他の人にも掛けようとする。その人の喜びを知って、また、他の人にも声を掛ける。それらが積み重なって、自分は周りの人を幸せにする大切な存在であり、また、周りの人も自分と同じように大切な存在であることを理解していきます。これが、**自己存在感**の高まりです。周りの大人の「ありがとう」の言葉で、子どもたちの自己肯定感が高まっていきます。そして、それは、必ず、子どもの幸せとともに周りの大人の幸せにつながっていきます。「自分から ありがとう」そして「大人から ありがとう」を、御一小学区にお住まいのみなさんが、子どもたちのため、ご自分のために進めてくださることを願っています。

(校長 増田久美子)

